

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 筑紫丘 高等学校

43

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>豊かな心を持ち創造力に富んだ、世界に貢献できる人材を育成する学校 理数科を中心とする理数教育の充実を通して、自然科学に対する高い素養を持つ人材を育成するとともに、ハイレベルで深い学びと多様な体験的活動を通して、自ら考え、判断し、行動する力を高め、新たな社会を創造できる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<p>○自らの可能性を高め、挑戦する気概を持ち、社会の発展に貢献する高い志を育む ○主体的に持続可能な社会の形成に参画し、多様な人々とつながりを保ちながら、その発展に寄与する態度を育てる ○「探究的な学び」、「深い学び」を通して自然科学に対する高い素養と論理的思考力を育む</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<p>○生徒に自ら考え、判断し、行動させ、さまざまな体験から多くを学ぶ指導をすべての教育活動で実践する ○高い学力と、それを活用して課題を解決する力や新たなものを創造する力を育む教育活動を展開する ○生徒の知的好奇心に応える多様な学びの機会を提供する ○集団や社会のリーダーとして望ましい態度や行動の在り方を身につけさせる</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<p>○さまざまな体験を通して学ぶ意欲にあふれ、コミュニケーション能力に優れ、他者を尊重しながら「自分の個性・能力を伸ばさせようと努力する、本校においてリーダーシップを発揮できる人 ○知的好奇心に富み、自己の可能性の開拓と学力の伸長に主体的に努力できる人 ○将来の自己実現のための学びと集団生活における体験的な学びのどちらにも積極的に取り組む人</p>

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>○豊かな心と創造力に富み、世界に貢献できる人材を育成する。 ○生徒が自ら考え、判断し、行動し、さまざまな体験から多くを学ぶ指導をすべての教育活動で実践する。</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>昨年度は適切な教育課程を編成し、3年間を見通した体系的な教育活動を円滑に展開することができた。新教育課程に即した活動の検証をしっかりとすすめる、3観点による評価方法の検討や、ICT機器のさらなる活用と合わせて引き続き授業改善を図る。 また、社会に貢献する「高い志」や「グローバルな視点」を持つ人材の育成については、主体的・対話的で深い学びを推進しつつ、必要な改善を加え対応していく。 各種コンテスト等、校外活動への積極的な参加を促すことで、学習意欲の喚起と挑戦する気概の醸成を進めることができた。今後も社会の一員としての自覚と責任の育成を図り、社会の発展に主体的に寄与する態度を育てたい。</p>	<p>【気概】 高い志の育成</p>	<p>○国内外の様々な取り組みに生徒が積極的に関わろうという雰囲気を醸成する ○持続可能な社会の形成に主体的に参画し、自己の夢の実現と共に社会に貢献しようという意欲を育てる</p>	<p>A</p>
	<p>【規範意識】 生徒に対する凡事徹底の指導</p>	<p>○挨拶や掃除などの徹底を推進して、生徒の規範意識やモラルの育成を進める ○学年集会や生徒同士の話し合いの場を通じて、生徒自らが筑高生としての在り方を考える機会を活用する</p>	
	<p>【知性】 ICTを活用した授業改善の推進による更なる授業力向上</p>	<p>○効果的なICTの活用により希望進路実現のための高い学力を育成する ○ICTを「何のため」に「どのように」使うか、明確なビジョンを打ち出して生徒と共有する</p>	
	<p>【社会性】 社会性と自律心・共感力の涵養</p>	<p>○授業・学校行事・部活動等における他者との対話の充実・深化を通して心身の健やかな育成を図る ○多様な人権課題を察知できる人権感覚と、課題解決に向けた実践的な行動力を育てる</p>	
	<p>【克己心】 進路実現を目標にした、折れない心の育成</p>	<p>○様々な実体験を通して自己理解と将来像の形成を促す ○自分の生き方についてじっくりと考える機会を作り、困難を克服して世界にはばたく力を身につけさせる</p>	

自己評価						学校関係者評価		
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
学力の向上	○高い学力とそれを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力の育成	学力の向上・定着につながる考査の運用及び事前から事後までを含めた指導の徹底を図る。 大学入試改革等への対応を見通した教育課程や指導方法の研究を進める。	授業アンケートや類型選択希望調査を実施し、生徒の学習状況や教員の授業方法などを振り返ることができた。	A	A	学習指導要領に沿った教育課程のもと、学力の定着・向上を目指し、大学入試に対応できる教育活動を行うことができた。今後も、課題意識を常に持ち、必要な改革は率先して行っていく。 ICT機器を活用した個別最適な学びや調査、アンケートなどを実施することができた。次年度は、これらをさらに充実させる。また、機器や個人情報取り扱いの方などを徹底させていく必要がある。 総合的な探究の時間を活用し、探究活動の基礎と実践力を身につけさせることができた。次年度も継続・改善し、より充実した探究活動を目指す。修正の少ない年間の目標設定や計画を行う。 沖縄研修や講演会など、DX事業を効果的に活用できた。また、課題研究や種子島・屋久島研修など、充実した活動ができ、次年度も継続して特色ある理数科・理数教育を目指す。	A	おおむね適切な評価がなされていると思われる。全体と個のバランスの取れた指導が出来ていることが推察される。集まった生徒に対して力をつける指導がしっかり行われていることは評価できる。
	○主体的な学習や他者との協働による思考力・判断力・表現力の育成	主体的・対話的で深い学びのある授業、ICT機器を活用した授業及び3観点での評価を実施する。 生活実態調査、出席統計など全職員で情報を共有し、きめ細やかな指導の徹底を図る。	生活実態調査の結果を共有し、面談や学年集会で活用することができた。	A	A			
	○自らの可能性を高め、挑戦する気概をもち社会の発展に寄与する高い志の涵養	総合的な探究の時間の内容・評価の検証を行い、更に充実した探究活動を推進する。 シラバスや年間指導計画の作成・検証を行い、点検・修正・フィードバックを通して授業や目標設定の改善を図る。	総合的な探究の時間の各講座の希望調査を実施し、生徒の興味・関心に沿った形で実施できた。	A	A			
	○理数教育の充実	高等学校DX加速化推進事業を活用し、学習環境や授業方法・内容の更なる充実を目指す。 理数科独自の研修やセミナー、講演会等の充実を図るとともに、校外活動への積極的参加を促す。		A	A			
生徒の健全育成	○集団や社会の一員としての自覚と責任の育成	さわやかな挨拶、マナーとしての所作、交通安全指導に力を入れる。また、生徒の主体的清掃活動を促す。 生徒の動向を観察しながら、些細な兆候を見逃さず、いじめの早期発見に努め、安全・安心な教育環境を確立する。	SNS講演会に参加した保護者(希望者)のアンケート内容は好評であった	B	A	挨拶については一定の成果があった。交通安全については、事故の発生件数は少ないが、ヘルメット着用等、意識を高めるために、さらに働きかけていく必要がある。 コロナにより学校行事との関わり方や学年としての縦の関係の作り方が一度途絶えた影響はまだ大きい。生徒たちは力を発揮しているが、まだまだ伸びしろがあるため、更なる成長を促したい。 面談ウイークや学校生活アンケートの結果による生徒とのやり取りで、起こりつつある問題を把握することができた。学校がチームとして問題に対処する仕組みをこれからもっと充実させる必要がある。 健康診断等のスムーズな運営については、様々な生徒への配慮、職員の業務の見直しを行った。また、心肺蘇生法等研修は今年度非常に充実していたため次年度はより早い時期の実施を目指す。	A	近隣で見ている限り、生徒の挨拶や交通マナーはよくできているので、B評価をA評価としても良いのではないかと。自転車通学生のヘルメット装着率も高まっているようである。義務化になってからの指導には難しさもあると想像されるが当事者意識を高める方向で取り組んでいただきたい。コロナにより生徒同士や先輩との関係が途切れがちで、自主性が薄れつつあるということだが、ぜひ取り戻してほしい。
	○協働の喜び、達成感・連帯感の醸成	「筑高三大行事」の運営を通してリーダーシップ、フォロワーシップを育成し、組織の在り方、他者との協働を学ばせる。 生徒会活動、部活動集会のより一層の充実と活性化を図り、達成感・連帯感を高める機会を増やす。	毎月一回の学校生活アンケートを通じて生徒の問題を早く把握することができた	A	A			
	○生徒理解の深化	学校生活アンケート、面談ウイーク等を十分に活用し、生徒の心のサポートを行い、問題の早期発見に努める。 「合理的配慮」が必要な生徒について保護者と連携し指導体制を整え、教員間の迅速な情報共有に努める。	保護者アンケートの締め切りを夏は早めに設定し、面談の内容に反映できた	A	A			
	○健康安全教育の充実	健康診断、身体測定、体力測定のスムーズな運営と精度を向上させる。 心肺蘇生法、AED、アレルギー(エピペン含)研修を実施する。		A	A			
進路指導の充実	○主体的な学習を促すための進路指導計画の継続的改善	3年間を見通した進路指導計画について継続的に改善を図り、生徒が主体的に学習する意識を学校全体で醸成する。 生徒の多様な進路希望に対応した、類型別の課外、進路別二次対策講座を充実させる。	課外・講座等の在り方、運営の継続的な改善を図り、実施できた。	A	A	進路指導課を中心に、主体的な学習を促すための指導計画を継続的かつ迅速に議論して実施することができた。次年度以降も引き続き建設的な改善を推進していきたい。 学年を中心に、本校生徒のニーズに合わせて進路情報を提供し、生徒を支援することができた。学習意欲の喚起・向上や難関大学学部の受験に対してさらに手厚くサポートしていきたい。 キャリア教育課を中心に、高い志・グローバルな視野を持つような効果的な講演会等を実施することができた。同窓会とも連携しながら、さらに効果的な取組を企画・実施していきたい。 学年・キャリア教育課を中心に、課題解決型の探究的な学び方を身につける取組を実施することができた。さらに効果的な指導方法について今後も継続して改善を図ってきたい。	A	本年度採択されている、高等学校DX加速化推進事業を活用して生徒に対して体験的な活動を計画中とのことなので、その成果を対外的に広報して本校の魅力アップに役立ててはどうか。また、理数科で得られた知見を学校全体で活用する方法もぜひ考えてもらいたい。
	○進路情報の提供による学習意欲の喚起	難関大学の総合型選抜や学校推薦型選抜入試に対応した指導体制を整える。 大学入試制度改革に関する情報の収集と提供を行い、生徒が納得する進路選択ができるようサポート体制を整える。	難関大・医志望者に対する指導 3年 入試問題等の協議会 1、2年 志望者集会	A	A			
	○社会に貢献する高い志・グローバルな視野をもつ人材の育成	社会人講演会や医学部・難関大学進学講座の一層の充実を図り、高い志をもつ大切さを喚起する。 高大連携事業、外部講座及びインターンシップへの参加を促し、グローバルな視野をもつ人材の育成を図る。	社会人講演会 2部制に変更 外部講座開設 増加	A	A			
	○思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ態度の育成	一般公募の小論文コンクール等に積極的に出品させる中で、添削指導を充実させて言語活動の充実を図る。 課題研究活動を中心に、社会及び学術的な課題を探究的に解決する態度を身につけさせる。	第1、2学年における小論文コンクール及び校外活動に対する広報・支援を実施できた。	A	A			

様式3

広報活動の充実	○中学生とその保護者への積極的広報の推進	中学校、学習塾への広報活動を充実させると共に、理数科(第4・6学区)の広報を積極的に実施する。 「中学生の体験入学」等の行事を改善・充実させ、地域の方々や小学生に対する広報活動を行う。	体験入学後のアンケートにおいて、中学生やその保護者の反応は概ね良好であった。	A	A	A	中学校や学習塾への広報活動を充実させることができた。対応する職員の増員等を検討したい。体験入学では、時間や人数等の限られた中で、可能な限り効果的に行っている。	A	不特定多数を対象とした学校公開行事はそのリスクを勘案の上、取り組むべきだが、「体験入学」等を通じてより意欲の高い志願者を集めるという視点も持ってほしい。
	○効果的な広報活動の展開	学校案内等の資料や動画、ホームページやSNS等、効果的な情報の提供を行い、本校の特色や魅力を発信する。 学校評議員や学校関係者評価委員に対して学校行事への参加を要請し、教育活動に対する意見を求める。		B			B		
図書活動の充実	○主体的な読書活動の推進と図書館利用の拡大	図書館オリエンテーションや図書委員会活動・読書週間の充実を推進し、図書館の積極的活用を促す。 読書案内「筑高の100冊」や図書館通信「来ぶらり」を活用し、生徒の主体的な読書活動や積極的な図書館利用を図る。		A	A	A	福岡地区高等学校生徒図書合同研修会において本校生徒がビブリオバトルの進行や運営を行い成功に貢献した。読書週間では文化部とのコラボイベントを実施し貸出数の増加に貢献した。	A	希望制課外に供していた時間の一部を生徒に返す形をとる中で、生徒個々の自主的な取り組みが充実したとの事例のように、生徒それぞれが持つ意欲や向上心を高める指導を今後も続けてほしい。
	○情操教育の充実	芸術鑑賞を実施し、豊かな感性と想像力・創造力の育成と多様な文化に親しむ態度を育成する。		A			A		
	○学校文化の継承	生徒の主体的活動と学校文化や歴史の記録としての校誌「筑紫丘」の計画的作成と創立100周年に向けての内容充実を図る。		A	A				
事務室運営	○経営参加型の事務室業務の推進	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。		A	A	A	限られた予算の中で、効果的な予算執行に努め、学校経営目標を実現するための事務処理を行った。支援金に関する事務処理の周知など、事務処理をより分かりやすくするため、発信する情報内容を検討していく。	A	保護者の理解と協力を得やすい対応を引き続きお願いしたい。
		各分掌と情報の共有化を図り、教員との緊密な連携によって学校経営目標を実現するための事務処理を行う。		A					
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。		B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶やマナー、清掃など、凡事徹底の指導を継続して行い、さらに人間的な成長を図る。 ・生徒、保護者の意識の変化に配慮しながら、自主・自立の意識を育む取り組みを継続して行う。 ・DX加速化推進事業等を通じて得た成果を外向け広報活動に活用し、意欲的で意識の高い生徒の募集に繋げる。 ・最新で高性能な機器を用いた「課題研究」を推進し、高い専門性を目指す生徒の育成を図る。 ・生徒に集団や社会のリーダーとして望ましい態度や行動の在り方を理解させることで地域社会において愛される学校を目指す。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
年間皆勤生徒の割合が、コロナ前は学年の50%ほどだったが現在は25%ほどとのことだが、社会全体の意識の変化が大きいなか、やむを得ない部分大きいと思う。	